

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

【教育研究上の目的】

深遠な問題を追究する研究能力の養成、並びに幅広い体系的知識の教授と応用力の涵養により、経済社会において必要な実践的問題解決能力及び研究能力を有する人材を育成し、経済社会の発展に資する。

【教育理念】

実践的問題の解決とその研究に志向する「高度専門職業人」の育成

アドミッション・ポリシー

本専攻は「高度専門職業人」の育成という教育理念の下、研究者を育成する「研究コース」と経営のプロフェッショナルを育成する「経営学修士(MBA)コース」とを設けている。

研究コース

研究コースでは、特定の専門領域や問題分野における深遠な問題を追究する研究能力の養成という教育目的の下、学生は自分の関心に応じて、日本・アジア経済関係研究、経済発展・金融組織研究、企業行動・経営管理研究、数量経済・モデル分析研究の研究分野から一つを選び学際的かつ多面的な研究を行う。したがって、これらの分野の問題に関心を持ち、関連する専門知識を身につけることによって、自らの研究能力の向上に意欲あふれる人の入学を求める。

経営学修士(MBA)コース

経営学修士コースでは、特定の専門領域における幅広い体系的知識とそれに基づく応用力(思考力、技法)の修得による実践的問題解決能力の養成という教育目的の下、特にマネジメント、アカウンティング、ファイナンス及びアジア・ビジネスに関する専門知識を中心に学び、これらの専門知識に基づいて経営上の問題に対して適切で具体的な解決案を作成する能力を身につけることによって、専門能力の一層の向上と問題解決能力の涵養を目指す人の入学を求める。

【選抜方法】(以下は、平成 28 年度学生募集。出願に当たっては募集要項を必ず確認してください。)

本専攻は、一般入試・外国人留学生入試・社会人入試の 3 種類の入試区分により選抜を行っている。

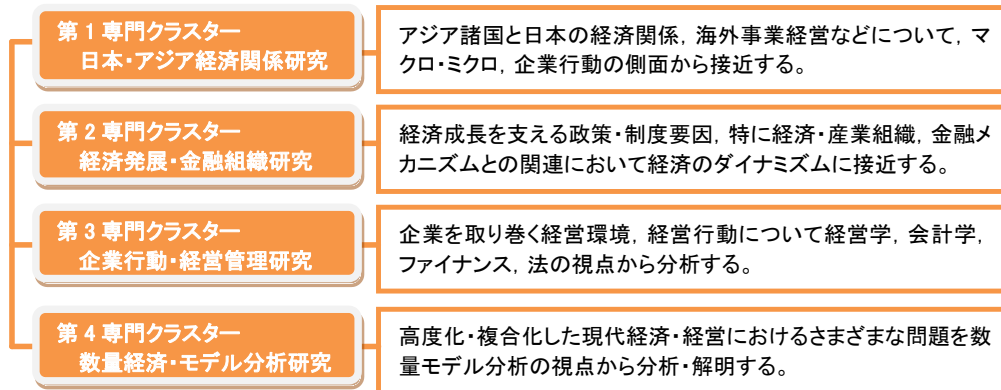
一般入試: 専門科目(経済学、経営学、いずれか 1 科目を選択)、英語(経済や経営などに関する英文和訳)、面接 ※専門科目・英語には免除要件あり、経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の両方

外国人留学生入試: 専門科目(一般入試と同じ)、日本語(語彙・読解(日本語能力試験 1 級程度)、論述)、面接 ※専門科目には免除要件あり

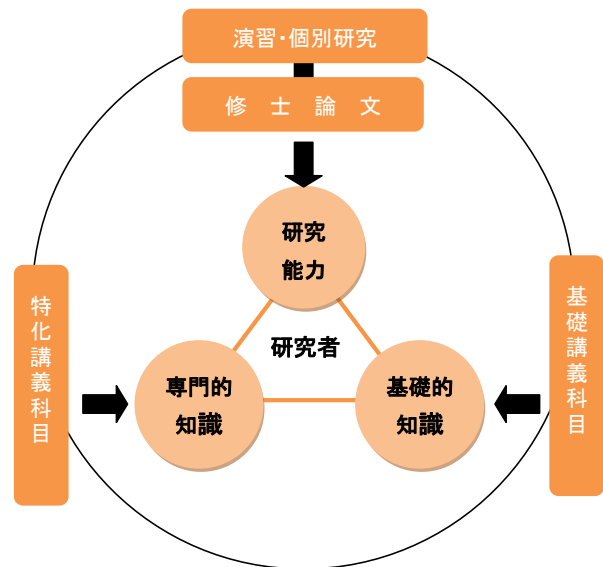
社会人入試: 小論文(経済や経営などに関する問題についての論述)、面接

研究コース

研究コースでは、従来の学問分野別の壁を取り払い問題分野別に再編された4つのクラスターから成る「クラスター制」を採用している。いずれかのクラスターに所属することにより、自己の追究したい研究領域に応じて学際的かつ専門的な教育を受けることができる。



基礎講義科目の履修により経済、経営などの基礎知識を修得するとともに、特化講義科目の履修により学際的かつ多面的な専門知識を修得する。これらと併せ演習・個別研究＝修士論文の作成を通じて、基礎的知識、専門的知識、研究能力を備えた優れた研究者の育成が図られる。



標準的な履修スケジュール

第1学年		第2学年	
第1semester	第2semester	第1semester	第2semester
基礎講義科目(8単位)			
特化講義科目(12単位)			
演習(個別研究・修士論文)(10単位)			

経営学修士(MBA)コース

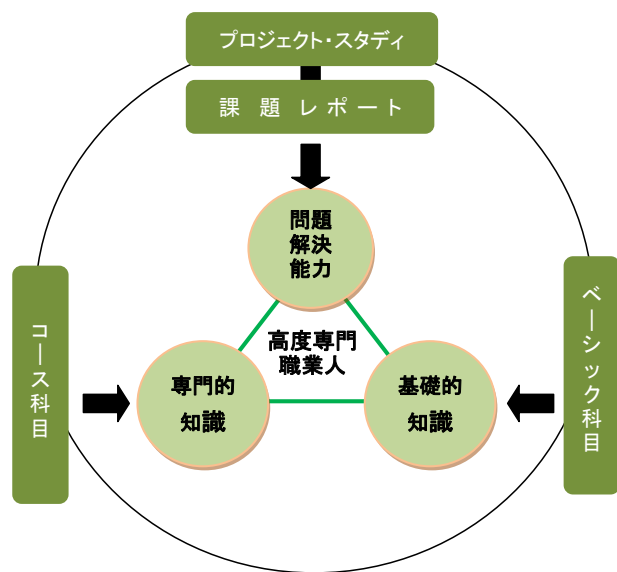
経営学修士コースでは、企業経営と企業会計を一体として捉えるカリキュラムにより、経営のプロフェッショナルの育成が図られる。マネジメント、アカウンティング、ファイナンス、アジア・ビジネスに関する専門知識を重点的に学び、これらの専門知識に基づいて経営上の問題に対して適切で具体的な解決案を作成する能力を身につけることができる。

教員によるレクチャーだけではなく、企業経営の事例研究、ディスカッション、シミュレーションなどが適宜取り入れられ、また実践的なビジネス実務に特化した特色ある授業が行われる。

夜間開講・土曜日開講及び長期履修制度を実施している。

ベーシック科目、コース科目、演習[プロジェクト・スタディ]＝課題レポートの作成を通じて、基礎的知識、専門的知識、問題解決能力を涵養する。

経営のプロフェッショナルに不可欠な科目をベーシック科目とコース科目に分け、主に第1学年の段階で履修する。また自ら設定したテーマについての調査研究を2年間にわたって進める教育プログラム[プロジェクト・スタディ]とあわせて、経営上の問題に対し適切な判断を下す人材育成のための基礎づくりが行われる。



標準的な履修スケジュール

第1学年		第2学年	
第1semester	第2semester	第1semester	第2semester
ベーシック科目(8単位)			
	コース科目(12単位)		(コース科目)
リサーチ・メソッド(2単位)	テーマ・サーベイ(2単位)	プロジェクト・スタディ(課題レポート)(6単位)	

- 中国などからの招聘講師による授業
 - 西南財経大学とのダブル・ディグリープログラム(平成26年度以降)
 - アジア地域におけるインターンシップ・海外研修(平成25年度以降)
 - 東京証券取引所におけるインターンシップ
 - 中国における海外フィールド研究と現地研究指導
 - 中国の大学と共催する国際カンファレンスへの参加・研究成果報告
- など、特徴ある授業及び正規授業以外のプログラムも行っている。

ディプロマ・ポリシー

本専攻が育成しようとする「高度専門職業人」とは、その具体的な人物像をあげれば、次のような能力を備えた人材を指す。

- a. 国際的感覚を身につけ、グローバルな観点から現代の経済・経営問題を分析できる。
- b. 地域社会特有の経済問題の研究を行い、具体的な政策立案能力を持ってその解決にあたることができる。
- c. 情報化社会の中で有効な情報収集能力と効率的な処理能力を身につけ、問題の分析・解決ができる。
- d. 留学生にあつては、日本の経済・企業を理解し、母国の経済発展や日本との国際交流に積極的に寄与できる。
- e. より高度な専門知識を身につけ、現実問題に即して新しく展開しつつある学際分野での研究を志向する。

研究コース

研究コースを修了し、特定の専門領域や問題分野において深遠な問題を追求する研究能力を有すると認められる者に、修士(経済学)または修士(経営学)の学位を授与する。

経営学修士(MBA)コース

経営学修士コースを修了し、特定の専門領域における幅広い体系的知識とそれに基づく応用力(思考力、技法)を備えた実践的問題解決能力を有すると認められる者に、修士(経営学)の学位を授与する。

教員養成(商業科専修免許)に関する教育理念・目標

当専攻では、次のような「高度専門職業人」たる教育者の養成を目指している。

- (1) 国際的感覚を身につけ、グローバルな観点から現代の経済・経営問題を分析できる。
- (2) 地域社会特有の経済問題の研究を行い、具体的な政策立案能力を持ってその解決にあたることができる。
- (3) 情報化社会の中で有効な情報収集能力と効率的な処理能力を身につけ、問題の分析・解決ができる。
- (4) より高度な専門知識を身につけ、現実問題に即して新しく展開しつつある学際分野での研究を志向する。

学位審査基準

本専攻は、深遠な問題を追求する研究能力、並びに幅広い体系的知識及び応用力を備え、経済社会において必要な実践的問題解決能力及び研究能力を有すると認められる者に修士の学位を授与する。

<博士前期課程の修了要件>

本専攻を修了するために必要な要件は次のとおりである。

- ・本専攻に2年以上在学すること。ただし、優れた業績を上げたものは在学期間の短縮を認められることがある。
- ・履修基準に従って30単位以上を修得すること。
- ・学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
学位論文の提出にあたっては、本専攻が実施する3回の報告会(テーマ報告会・中間報告会・最終報告会)での報告を順次行っていることが必要である。

<学位論文の審査及び最終試験の審査基準>

学位論文の審査及び最終試験は、次の審査基準に基づいて行う。

研究コース

研究コースの学位論文の審査は、修士論文によって行う。

修士論文は、論文としての総合性、すなわち、タイトルに即した自らの論旨の展開に基づいた一貫した視点のもとでの総合的内容を持つことが要求される。

修士論文の審査においては、次に示す基本要件の観点から評価を行う。

- 論文としての形式：全体の構成、注、文献引用など論文としての形式を備えているか。
- 論理性：主題と内容との対応、結論に至るまでの道筋において論理性が確保されているか。
- 文献探索の質と量：先行研究は踏まえられているか。その範囲は十分であるか。また、原資料に基づくアプローチがなされているか。

研究コースの修了要件を満たした者に対しては、研究の内容に応じて「修士(経済学)」又は「修士(経営学)」の学位を授与する。

経営学修士(MBA)コース

経営学修士コースの学位論文の審査は、課題レポートによって行う。

課題レポートは、必ずしも論文としての総合性を要求するものではなく、次のような個別的なテーマについての報告又はレビューでも良い。

- ・計量技術による統計分析(アンケート分析など)
- ・企業などの事例研究(会社事例など)
- ・職場における課題研究(問題解決など)
- ・文献研究(文献や仮説のサーベイなど)

課題レポートの審査においては、次に示す基本要件の観点から評価を行う。

- 課題の妥当性：とりあげた課題は本専攻の主旨から見て適切か。
- 視点の明確性：課題解決またはまとめに向けた方向性は適切に示されているか。
- 知識の応用度：設定された課題の解決、取りまとめにおいて、十分な知識・ノウハウなどが用いられているか。

経営学修士コースの修了要件を満たした者に対しては、「修士(経営学)」の学位を授与する。